平城宮跡歴史公園 モビリティ周遊マップ

運転手付き電動カート

① 朱雀門
↕
② 大極門 (2022.3 復原)
↕
③ 第一次大極殿

運転手付き電動カート（ＬＳＶ－４）は、電動で環境に優しいモビリティです。運転手を含め最大４人が乗車することができ、コンパクトなモビリティであるため、公園内の移動支援に適しています。

今回の実証実験では、平城宮跡の入り口とも言える朱雀門と第一次大極殿の間を約１０分で結びます。

道中では、今年３月に復原事業が完了したばかりの大極門をご覧いただけます。

一部時間帯を除き、１時間に３本運行しています。

三輪電動アシスト自転車

① 朱雀門
↕
④ 東院庭園
↕
⑤ 遺構展示館
↕
⑥ 第二次大極殿
↕
② 大極門 (2022.3 復原)
↕
③ 第一次大極殿

電動アシストつきの自転車で、運転手を含め最大３人が乗車できます。

今回の実証実験では、朱雀門、東院庭園、遺構展示館、第一次大極殿の各施設間を往復しています。

利用者の状況に応じ、随時運行しています。

平城宮跡歴史公園について

平城宮跡歴史公園は、奈良市内に広がる特別史跡平城宮跡を計画地とした国営公園です。世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つでもあり、我が国を代表する歴史・文化資産である平城宮跡の一層の保存・活用を図る目的で、平成20年度に事業化されました。

○エリア紹介

約１３００年前、この場所に平城宮が築かれ、今に続く律令国家としての国づくりが完成しました。ここには宮を構成する重要な遺構が奇跡的に遺っており、発掘調査・研究の成果をもとに往時の平城宮の姿を復原できる「特別な場所」となっています。園内は大きく分けて本公園の正面玄関となる「朱雀門ひろば」を中心とした観光拠点ゾーン、本公園のシンボルゾーンとなる「第一次大極殿」を中心に復原施設や遺構展示物があります。

○復原事業

２０１５年５月には「復原事業情報館」を開設、２０１７年１１月から「第一次大極殿院南門復原整備工事」に着手しました。２０１８年３月２４日、朱雀大路を中心に観光拠点ゾーンとして整備していた「朱雀門ひろば」「平城宮いざない館」が完成し、県エリアとともに開園することとなりました。２０２２年３月には第一次大極殿院南門の復原が完成し、門号を「大極門」として供用しました。復原にあたっては、古代建築の伝統技能を継承する様々な分野の多数の工匠の技・経験・知識が活かされています。

（出典：平城宮跡歴史公園HP）

ルートの見どころ（朱雀門から順にまわる場合）

① 朱雀門

朱雀門の前では外国使節の送迎を行ったり、時には大勢の人が集まって歌垣なども行われました。正月には天皇がこの門まで出向き、新年のお祝いをすることもありました。朱雀門の左右には高さ６ｍの築地がめぐり、１３０haの広さの宮城をとりかこんでいました。（出典：奈良文化財研究所HP）

約900m

② 大極門（2022.3 復原）

２０１７年１１月に始まった復原工事が２０２２年３月に完成し、供用しました。
周囲を築地（ついじ）回廊で囲んだ南北約３１７．７m、東西約１７６．６mの第一次大極殿院の南側に位置する正門です。儀式の際には天皇が出御することもありました。

（出典：平城宮跡歴史公園HP）

約390m

③ 第一次大極殿

正面約４４m、側面約２０m、地面より高さ約２７m。直径７０cmの朱色の柱４４本、屋根瓦約９万７０００枚を使った平城宮最大の宮殿であり、その建物は奈良時代の中頃に、一時都とした恭仁（くに）宮に移築され、山城国の国分寺金堂になりました。

（出典：平城宮跡歴史公園HP）

約860m

④ 東院庭園

平城宮は他の日本古代都城の宮殿地区には例のない東の張出し部を持ちます。
この南半は「東宮」あるいは「東院」と呼ばれていました。ここで宴会や儀式を催し、現在の迎賓館のような役割を果たしたようです。

（出典：平城宮跡歴史公園HP）

約820m

⑤ 遺構展示館

発掘調査で検出された遺構そのものを、覆屋（おおいや）と呼ばれる保護施設の中で保存・展示しています。

おもな展示エリアは
北棟・中棟・南棟の３つの建物で構成されています。

（写真：平城宮跡歴史公園HP）
（出典：奈良文化財研究所HP）

約200m

⑥ 第二次大極殿

天平１７年（７４５）から約４０年間使われた大極殿跡。基壇や柱跡などが復原されています。
ここから若草山や春日山などが見渡せ、平城宮跡の広大なスペースが一望できます。

（出典：平城宮跡歴史公園HP）

約370m

降車時のアンケート回答にご協力お願い致します。